

## 目次

	これからの授業づくりに向けて	6
	本書の読み方	10
国語科	国語科 Q & A	12
	実践例① (第1学年)	14
	実践例② (第4学年)	20
	実践例③ (第5学年)	26
	理論	32
社会科	社会科 Q & A	34
	実践例① (第4学年)	36
	実践例② (第5学年)	42
	実践例③ (第6学年)	48
	理論	54
算数科	算数科 Q & A	56
	実践例① (第2学年)	58
	実践例② (第4学年)	64
	実践例③ (第6学年)	70
	理論	76
	コラム (対話を促進する支援の前提となる実態把握)	78
理科	理科 Q & A	80
	実践例① (第3学年)	82
	実践例② (第4学年)	88
	実践例③ (第6学年)	94
	理論	100
生活科	生活科 Q & A	102
	実践例① (第1学年)	104
	実践例② (第2学年)	110
	理論	116
音楽科	音楽科 Q & A	118
	実践例① (第1学年)	120
	実践例② (第5学年)	126
	理論	132

	コラム (対話の技能を高める・対話の雰囲気をつくる) .....	134
図画工作科	図画工作科 Q & A .....	136
	実践例① (第1学年) .....	138
	実践例② (第2学年) .....	144
	理論 .....	150
家庭科	家庭科 Q & A .....	152
	実践例① (第5学年) .....	154
	実践例② (第6学年) .....	160
	理論 .....	166
体育科	体育科 Q & A .....	168
	実践例① (第1学年) .....	170
	実践例② (第3学年) .....	176
	実践例③ (第5学年・保健) .....	182
	理論 .....	186
特別の教科 道徳	特別の教科 道徳 Q & A .....	188
	実践例① (第4学年) .....	190
	実践例② (第6学年) .....	192
	理論 .....	194
	「特別の教科 道徳」の授業づくりについて .....	196
	学習意欲を育てるための特別支援教育の視点 .....	198
授業づくりの 5つの視点	単元や題材の構成 .....	202
	思考の手がかりの共有化 .....	204
	知識・技能の習得 .....	206
	対話の促進 .....	208
	学習環境のユニバーサルデザイン .....	210
	授業づくりをするときの5つの視点 (まとめ) .....	212
	あとがき .....	213
	参考文献 .....	214





教師の発問や働きかけと子どもの様相を示しています。

「ちょっとひと工夫」には、各教科で大切にしていること、実践例に関わる教材等を示しています。

**① 自分から発問で発問して、授業大会を開こう**

自分の発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**② 授業の様子**

発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**③ 授業の様子**

発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**④ 授業の様子**

発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**① 自分から発問で発問して、授業大会を開こう**

自分の発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**② 授業の様子**

発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**③ 授業の様子**

発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**④ 授業の様子**

発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。発問の場、発問の場を確保し授業を見守ります。

**【理科】**

**① 発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。**

**② 授業の様子**

**③ 授業の様子**

**④ 授業の様子**

**① 発問の場、自分の発問の場をしっかりと確保し授業を見守ります。**

**② 授業の様子**

**③ 授業の様子**

**④ 授業の様子**

「本校の研究理論」には、各教科で育成を目指す「思考力」を2ページに集約して説明しています。

## 理科 Q&A



**Q** 子どもが根拠のある予想を立てるために、どんなことを工夫すればよいのでしょうか。

**A** 根拠のある予想を立てるためには、子どもが何について考えていくのか、しっかりと理解しておくことが大切です。子どもが根拠をもつためのよりどころは、生活経験と既習事項でしょう。例えば、振り子の実験の際にブランコをして遊んだときの経験を想起させる場面を設定したり、問題解決につながる既習事項を補助黑板に位置づけたりすることで、それらを手がかりに根拠のある予想を立てることができるようになっていきます。(理科実践例② P.88～)

**Q** 子どもが進んで話し合いをするには、どうすればよいのでしょうか。



**A** 理科において結果・考察場面での話し合いは、大切です。その場面で子どもが話し合いたいと思う気持ちが大切です。そのために、例えば実験を分担して行い、それを集約して1つの結論を出すような授業構成の工夫が考えられます。すると、他のグループの結果はどうなったのかと聞きたいという思いを強めていくでしょう。またふだんから、より科学的な考えに高める(客観性)にはみんなの考えを合わせて、みんなに認められることが大事だなと感じさせながら、授業を進めることも大切です。(理科実践例①②③ P.82～)



**Q** 観察、実験の結果を分かりやすく整理するには、どうすればよいのでしょうか。

**A** 例えば、観察の結果は時系列で並べる等して、後の観察と比較できるようにする工夫が考えられます。実験のデータは表やグラフ等、子どもの発達段階に合ったまとめ方をするとよいでしょう。その際、視覚的に捉えやすいように色分けしたり、傾向として見られるように丸で囲んだりする工夫があると、子どもにとって、より分かりやすいものとなります。(理科実践例③ P.94～)

**Q** 課題解決に必要な知識・技能に差が見られる場合には、どのような支援が必要なのでしょうか。



**A** 知識・技能が不足している場合、問題解決を通して少しずつ力がつくようにします。知識・技能を最初は教師が補い、最終的には知識を活用して、課題解決できる場を増やしていくような単元構成にする等が考えられます。また、音を聞きながら手回し発電機を回すことができるようにする等、技能の差を埋めるための教具を必要に応じて使用させることで、学習に臨むこともできると考えます。(理科実践例③ P.94～)



**Q** 何を、どのように振り返らせることが、次の学びにつながるのでしょうか。



**A** 課題の解決を通して分かったことやできたこと、もっと調べたいことを、振り返らせることが大切です。例えば「電気は、ものによって使う量が違う」ことが分かったら、「他のものではどうか」「もっと〇〇について考えたい」等、本時の学びを生かそうとしたり、深めようとしていく問題を子どもがもつようになるでしょう。そうするためにも、振り返りの場を位置づけ、「疑問に思ったこと」「さらに調べたいこと」等の視点からノート等に記述させ、それを基に、話し合う場を位置づけて学級全体で共有するようにしていきます。（理科実践例③ P.94～）



**Q** 子どもが考えたい問題がたくさん出てきたときには、どうすればよいのでしょうか。

**A** みんなで解決する問題になるよう、出てきた問題を類別して整理し、共通理解できるようにします。ペアやグループで共有する場を設けるのもよいでしょう。その際、例えば表出した問題を付箋に書き、画用紙等に類別・整理します。そして、それを用いて話し合い、解決したい問題を選んだり、解決する順番を決めたりした後、全体交流をします。みんなで解決する問題にならなかった場合でも、家庭学習等の解決する場を示すとよいでしょう。

（理科実践例③ P.94～）

**Q** 教材作成の際に、どのようなことに気をつけておけばよいのでしょうか。



**A** 理科で教材とは、自然そのものです。自然にどう働きかけるか（観察・実験）で、出合える自然事象が異なってくるため、繰り返し働きかけられるかどうかを見極め、作成することが大切です。

例えば、チョウの羽化の場面のように、継続した観察が容易に行えない場合は、観察した結果を繰り返し見られるよう、ICT等を活用して写真や映像で保存しておくともよいでしょう。

（理科実践例①② P.82～）



**Q** 学んだことの有用性を感じられるためには、どうすればよいのでしょうか。

**A** 学んだことを生かせる場や生活とつなぐ場を単元の中に位置づけておくことが大切です。例えば「水は温度によって、固体・液体・気体にすがたを変える」「沸騰しなくても蒸発する」ということを学んだとします。その後、生活の中で結露現象が起こる理由について、課題解決する場を位置づけます。その際、学んだことがどう生かせるか、見通しをもたせることが大切です。さらに、他の結露現象にも当てはめて考えられるようにします。

（理科実践例①②③ P.82～）

## 友達のことを考えて [B 親切, 思いやり]

## 目指す子どもの姿

## 道徳的諸価値の理解

相手の行為に対して、許せるかどうかの判断とその理由は多様であり、相手の気持ちを推し量って考えることが大切であることを理解できる。

人間としてよりよく生きる  
基盤となる道徳性

思いやりの心の大切さの理解を基に、さまざまな状況下においてどのように対処すればよいかを判断しようとするとともに、進んで親切な行為をしようとする思いを高めている。

## 自己の生き方についての考え

教材の主人公に自分を重ね合わせて自分自身の問題として受け止め、思いやりの心について自己を振り返り、自分のよさや課題を見いだすことができる。

## 教材について

教材名：ししゅうのあるセーター（香川県小学校道徳教育研究会「ともに生きる」4年）

主人公のけい子さんは、ロンドンのおばさんから送られてきたししゅうのあるセーターを着て誕生パーティーを開きました。ところがお祝いに来てくれたゆきえさんがうっかりジュースをこぼしてしまい、大事なセーターにしみができてしまいます。子どもたちは、「許せる」と「許せない」の間で揺れ動きながら、なぜけい子さんはゆきえさんを許すことができたのかを話し合っています。

※授業に必要な指導案やワークシート等は「附坂小教材の宝箱」へGO→



## 学習活動1 教材文1を読み、学習のめあてをつくる

まず、セーターを汚されたけい子さんが、ゆきえさんを許せないでいる前半部分（教材文1）を読みます。けい子さんの怒っている気持ちを明らかにした後、実はけい子さんはゆきえさんを許せたことを子どもたちに伝え、学習のめあてをつくります。

## なぜけい子さんは、ゆきえさんを許すことができたのだろう

## 学習活動2 自分ならゆきえさんを許せるかどうかを心メーターに表し、その理由を話し合う

次に、右のように教材と子どもたちの経験をつなぐ支援を行います。そして、許せるかどうかをそれぞれの心メーターに表し、その理由をノートに書かせて、名前磁石を黒板に貼り、考えを表出させます。



UD

けい子さんによく似た体験が自分にもあったことを、子どもたちが視覚的に捉えて想起できるように、習字道具の片付けをしている時に墨をこぼされた場面をイラストで提示します。

あなたがけい子さんなら、ゆきえさんを許すことができますか。許せる気持ちがどれくらいか、心メーターで表してみましょう。





UD

事前の質問紙調査の結果から、友達を「許せた経験」「許せなかった経験」のある人数を棒グラフで表し、視覚的に捉えやすくするとともに、それぞれの理由も提示し、違う立場の友達がいることや、同じ立場でもその理由には多様さがあることに気付かせます。



けい子さんの場合も、理由はいろいろありそうですね。

「許せる」気持ちの方が大きいのは同じだけれど、理由は違うよ。



UD

心メーターは、微妙な心の揺れ動きを色の割合で表現できる道具です。

### 学習活動3 教材文2を読み、ゆきえさんを許せるかどうかを再度心メーターに表し、活動2から変化した理由を話し合う

教材文2を読み、「けい子さんにどのように謝ればよいのか」を悩んでいるゆきえさんの様子確かめて、教師は次のように発問します。



あなたがけい子さんの立場なら、ゆきえさんを許すことができますか。



対話

「許せる」「許せない」の2つの気持ちを対立軸として板書に示します。再度、各自の心メーターに気持ちを表し、心メーターが動いた子どもには板書上の名前磁石を移動させます。こうすることで、互いの考えの異同が明確になり、相互に聞いてみたいという思いを高め、対話が活性化します。



きっとゆきえさんも悲しい思いをしていると、けい子さんは気付いたのだと思います。

相手の気持ちに気付いたから、また友達に戻れたのだと思います。



ほくが花瓶を壊した時、お母さんはほくを責めなかったよ。(お母さんは、ほくの悲しい気持ちを知っていたんだと思います。)

### 学習活動4 本時を振り返り、まとめをする



「相手を思いやる」とはどういうことですか。

「思いやりのある行動」とはどういう行動ですか。



相手の気持ちに気付いて、お互いが笑顔になれる行動をすることです。





## 単元構成 単元や題材構成の工夫によって、授業を変える

子どもたちの学習意欲を喚起したり、主体的な学びを促したりするためには、単元や題材の構成を工夫することが大切です。その際は、まず、各教科のねらいを明確にした上で、子どもの実態を考慮しながら構成を考えていきます。

子どもたちは、それぞれに特徴が異なり、学習内容に対する関心や自信の度合いもさまざまです。だからこそ、学級全体の実態を把握し、下記の社会科実践のように関心を高める構成にしたり、次ページの生活科実践のように自信を高める構成にしたり、もしくはどちらも高まっていくような構成にしたりする必要があります。また、課題解決に必要な知識・技能をいつ習得させるとよいか、発展的な課題や個々の興味・関心に応じた課題に挑戦する場をどのように設定するとよいかといったことを考えることも大切です。



### 子どもの実態

〇〇なのはどうか。

この前、疑問に思ったことについて知りたいな。

### 第4学年 社会科「過疎の島はつながりを求めた ～企業の島からアートの島へ～」

時間・空間的視野や立場を広げ、多くの観光客が島を訪れる理由やアートの島を目指す取り組みの価値を捉え、地域がもつ特色を生かし、豊かに生活することについての解釈を再構成する力の育成を目指しました。そのためには、校外学習で体験したことや感じたことを基にした疑問点や知りたいことを中心に、子どもの意識をつないで関心を高めつつ、学習課題を追究していくような単元構成が有効であると考えました。

そこで、「島を訪れる観光客が多いのはなぜか」という疑問を出発点に、島がアートを取り入れて観光

に力を注いでいく取り組みをさまざまな立場の人々に着目し、調べていきました。それぞれの思いや願いを知り、話し合うことで、島がどのように変化してきたかを捉えていきました。さらに、観光客の受け入れについても追究していくことで、島の人々の思いや願いが単なる商売ではなく、人と人のつながりにあることに気付いていきました。

#### 校外学習と主な子どもの疑問（全3時間）

「島原に3年に行っただけで、外国人の観光客がとても多かった。35歳の僕も海外にどうしてゆくのかな」等のような、子どもたちの共通体験である校外学習で感じた疑問を時間的・空間的視野や立場を広げ追究できるように単元構成にしています。

- なぜ島原には外国からの観光客が多いのだろう  
世界各地から多くの観光客が来ていることは分かったけれど、なぜ2004年から急に増えたのかな。
- なぜ安藤さんは、地中に美術館をつくったのだろう  
安藤さんが瀬戸内海の美しい景色の邪魔にならないように工夫して美術館を作ったのは分かった。今はお隣の三宅さんについて知りたい。
- なぜ三宅さんは、福広さんと協力して観光地区を開発したのだろう  
三宅さんは人口を増やすために、島を3分割して観光力を入れたことが分かった。でも福広さんはどうなのかな。
- なぜ福広さんは、三宅さんに協力したのだろう  
福広さんは瀬戸内海の自然を活用して、島原のアートの島にし、お年寄りも元気にしたかったんだ。福島のアートは観光地区だけじゃないな。
- なぜアート作品が文藝地区まで広がったのだろう  
家プロジェクトをきっかけにアート活動が楽園だけでなく、色々な立場の人にも広がったんだ。
- なぜ福島のアート作品の多くは外に運られているのだろう  
多くの観光客が福島を訪れるのは、瀬戸内海の美しい自然や古い町並みの中にあるアート作品を見るからなんだな。
- 福島では多くの観光客をどのように受け入れているのだろう  
協力して受け入れているけれど、増え続ける観光客に対して島民3000人で大丈夫なのかな。
- なぜ福島の人は、多くの観光客を受け入れ続けているのだろう  
福島の人が多くの観光客を受け入れ続けているのは、お金儲けだけでなく、人と人のつながりも大切にしているんだな。



→実践の詳細は、P.36へ

教師が学習課題を提示し、一方的に与えるだけでは、子どもたちによる主体的な学びは促進されません。授業づくりにおいては、子どもたちの疑問点や知りたいと思ったことを大切にしながら、何をどの順番で解決していくことが子どもたちの学習に対する関心を高めるのかを考えて、単元や題材の構成を工夫することが大切です。

一方で、子どもたちの自信の度合いに着目して、単元や題材の構成を工夫することも大切です。



## 子どもの実態

この説明で伝わるのかな、不安だな。  
□□はもうできるよ。もっと別のことにも挑戦したいな。

### 第2学年 生活科「友達と一緒に作って遊ぼう」

これまでの遊びの経験や国語科で学んだ説明のしかたを生かして、おもちゃ自体および遊び方やその説明のしかたを工夫する力の育成を目指しました。

子どもたちのほとんどは、おもちゃ作りには自信がありましたが、それは自分が楽しむことが中心であって、他の友達のことを意識したものではありませんでした。また、おもちゃを作るのが得意な子どもであっても、その遊び方を相手に分かりやすく伝えることは、難しいと感じていました。

そこで、遊ぶ相手を変えながら、おもちゃ祭りを計3回行う単元構成にしました。同学年の友達という考えやすい相手から、

1年生、幼稚園の友達と、相手の立場をより考慮する必要がある相手へと変えていくことで、それまでの課題解決の経験を基にしながら、より難しい課題を解決していけるようにしました。それにより、子どもたちは自信を高めながら、意欲的に学習を進めていきました。

→実践の詳細は、P.110へ

第1次	①② 身の回りの物で、いろいろなおもちゃを作って遊ぼう
	③ 学級の友達や1年生、幼稚園の友達と一緒にする遊びを決めよう
	④⑤ おもちゃ祭りの準備をしよう
第2次	⑥⑦ 学級の友達とおもちゃ祭りをしよう
	⑧ 1年生の友達とおもちゃ祭りがもっと楽しくなるように工夫しよう <small>学級の友達で行ったおもちゃ祭りを通して見つけた、「もっと○○を作りたい」「□□を直したい」等の思いを大切に、グループで相談しながら工夫を加える時間を設定します。ここでは、「遊びの種類を変えたい」という子どもの思いも受け止め、遊びのグループの移動、変更を認めます。</small>
第3次	⑨⑩ 1年生の友達と一緒に、おもちゃ祭りをしよう
	⑪⑫ 幼稚園の友達とおもちゃ祭りがもっと楽しくなるように工夫しよう <small>1年生の友達で行ったおもちゃ祭りを通して見つけた、「もっと○○を作りたい」「もっと楽しいおもちゃ祭りにしたい」等の思いを大切に、グループで相談しながら工夫を加える時間を設定します。</small>
	⑬ 幼稚園の友達と一緒に、おもちゃ祭りをしよう
	⑭ おもちゃ祭りを振り返って、学習のまとめをしよう

子どもたちは、自信をもつことで、進んで学習課題の解決に取り組んだり、次々と新しい課題を解決しようとしていきます。そのような子どもたちを育てるためには、成功経験によって自信を高めるようにしたり、自信を高めた子どもたちの意欲に応じた発展的な課題解決の場を設定したりすることが重要です。

このように、限られた時間を有効活用し、学習内容と子どもの実態に応じた単元や題材構成にすることで、子どもの関心や自信を高め、自ら課題を設定し学び続けるといった学習意欲を育てることができると考えています。

以下に、「単元や題材構成の工夫」を授業づくりに生かす際のポイントをまとめます。

#### 単元構成

- 各教科や学習内容におけるねらいと、関心や自信、習得している知識・技能等の子どもの実態を明らかにする。
- 子どもたちの意識の流れを大切にしながら、子どもたちの関心や自信を高められるような学習課題の配列を行い、知識・技能の習得の場や、発展的な課題の解決の場を設定する。



「思考の手がかり」とは、思考場面において、何に目をつけ（視点）、どのように考えていくのか（手順）を言語化したものです。「思考の術」「思考様式」とも言い換えることができます。また、「思考の手がかり」を共有化すると、個々の子どもが「思考の手がかり」を課題解決に役立つものとして、そのよさを感じたり、学習集団として「思考の手がかり」を活用できる有用なものとして認めたりする状態を指しています。育成したい「思考力」を明確にし、視点や手順といった「思考の手がかり」を共有化することによって学習集団全体が何に目をつけ、どのように考えていけばよいのかが分かり、すべての子どもが主体的に課題解決に向かって思考することができるのではないかと考えています。

以下に「思考の手がかり」(実践例下線部)の共有化を目指した実践の概略を紹介します。



## 子どものつますき (視点)

何を見て考えていけばよいのだろう。  
見るポイントをどのように生かしていけばよいのだろう。

### 第2学年 算数科「はこの形をよく見よう」

はこの形をしたものの性質に興味をもち、構成したり分解したりする活動を通して、はこの形を比較し、その性質や構成のしかたを捉える力の育成を目指しました。性質や構成のしかたを捉えるためには、図形を構成する要素（面、頂点、辺）に着目し、面の大きさや数や形、頂点の数、辺の数や長さといった視点で図形を見るのが大切です。

そこで、第1学年において、はこやつつ、ボールといった形を見たり触ったりした経験を想起させるとともに、第2学年の「四角形」で学習した、長方形や正方形の性質とつなぐことで、面の数や形、大きさといった視点を表出させました。そして、それらの視点で、はこの形を見ていくことにより、その特徴を捉えていくことができました。



実践の詳細は、P.58へ

### 第1学年 図画工作科「想像を膨らませてかこう ーうつしたかたちからー」

身近な物を写して楽しむスタンプ遊びをしました。版で写した形や色から想像を膨らませ、表したいイメージを表すために、版の向きや並べ方等や使う色の選択等といった、表し方を吟味する力の育成を目指しました。表し方を吟味するためには、写した形の「向き」「並べ方」「数」「形の配置」「色」「場所」といった視点を明確にもち、どのような工夫をすれば表せるのかを知っておくのが大切です。

そこで、まず、グループの中で、写した形や色から感じたことや見立てたものを自由に発表させます。その際、教師がどうしてそう感じたのかを問い返ししながら、表し方の工夫の視点に気付かせていきます。これらの視点に基づいて表したものを見せ合うことで、表し方の工夫を吟味するとともに、自己の製作活動に生かすことができました。



実践の詳細は、P.138へ



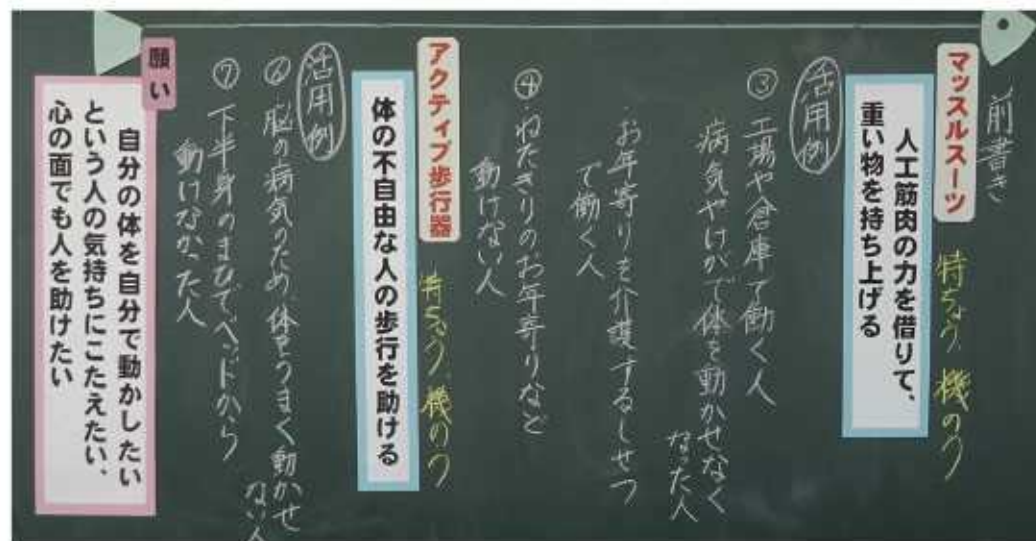
## 子どものつまずき（手順）

どのように考えていけばよいのだろう。  
別の問題を解決するときにも使えるのかな。

### 第4学年 国語科「文章のつながりを考えて読もう - 『ゆめのロボット』を作る -」

提案書作りに興味をもち、教材文や自分が選んだロボットについて書かれた本を読むことを通して、筆者のロボット作りに対する願いや考えと、活用例とのつながりを基に、その整合性を吟味する力の育成を目指しました。整合性を吟味するためには、文章の構成を捉えることが大切です。

そこで、提案書の「始め」「中」「終わり」といった文章の構成を、下の写真のような魚の図（思考ツール）を使って捉えられるようにしました。「終わり」である筆者の「願い」からスタートし、どのような活用例を挙げて述べているのかを順に読み取っていくことで、自分の提案書を作る際にも、ロボット作りに対する願いや考えと活用例との整合性を吟味しながら、よりよいものを作ろうと考えていくことができました。このような思考ツールは、説明文に限らず、物語教材や手紙等の文章を書く学習の際にも活用できます。他の学習においても繰り返し用いることで、別の問題を解決する際にも活用することのできる「便利なもの」であることを実感し、進んで活用していくことができました。



→実践の詳細は、P.20へ

このように、「思考の手がかり」を共有化することができれば、思考の道筋が明らかになります。そして、思考の道筋が明らかになった子どもたちは、自らの力で考え続けていくことができるようになるのです。そのため、「思考の手がかり」を共有する際は、できるだけ子どもたちに分かりやすいことばで言語化させるとともに、獲得するだけでなく、それらをさまざまな課題の解決にも活用できる状態にしておくことが大切です。

以下に、「思考の手がかり」を授業づくりに生かす際のポイントをまとめます。

#### 思考の手がかり

- よさを感じさせたり、学習集団で活用できる有用なものとして認めさせたりしておく。
- 子どもたちに分かりやすいことばで表現する。
- 汎用性があり、別の思考場面においても活用できるものにする。